

医療事務学科 2024年度 第1回 教育課程編成委員会 議事録

1. 日 時：2024年6月27日（木） 15：30－16：30
2. 場 所：YIC 情報ビジネス専門学校 2号館 21 教室
3. 参加者：福谷 俊二 様
(一般社団法人 吉南医師会 事務局長)
日當 泰浩 (事務長) 河津 道正 (副校長) 森野 茂弘 (教務課長)
豊田 菜摘 (教務係長) 岡屋 ちひろ (学科長) 澤谷 久美 (教員)

4. 議題

1. 今年度の取り組みについて (資料1)
 - ①検定取得
 - ②就職について
 - ③インターンシップについて
 - ④昨年度委員会にてご指摘のあったこと
 - ⑤今年度の取り組み (学内で検討した事)
 - ⑥検討したい内容

5. 詳細内容

1. 今年度の取り組みについて (資料1)

①検定取得

岡屋：2年生の検定受験予定は資料の通り。診療報酬請求事務能力認定試験は今年度も任意受験。

医師事務作業補助技能認定は昨年の取得率 68.4%に対し 80%の取得率、介護事務管理士技能認定試験は昨年の取得率 92.3%に対し 100%の取得率、医療事務技能審査試験 (歯科) は昨年の取得率 58.8%に対し 80%の取得率を目指す。取得率向上対策としては、医師事務作業補助技能認定試験は実際に授業を行っている中で学生の様子を見ると、文章構成を苦手としている学生が多いことが見受けられた。診断書等の書類を作成する際には、何のために使用する書類だから、必須項目には何があるのかということをしつかりと確認をする。例えば診断書なら、ケガの診断するために検査を行い、その結果、治療方針はどうなるかという書類作成の意義を理解していく。介護事務管理士技能認定試験は、昨年度の学生を見ているとレセプト作成ではなく保険知識を問われる問題を苦手としている。医療保険と介護保険で重なるところもあるため、違いを明確にして理解を促す。視覚的な資料としてパワーポイントを使用する予定。

福谷：各検定試験とも無理ない目標を立てていると感じる。介護事務については、先の発言にもあったように医療保険と介護保険は混同している部分がある。利用者にとってもどちらの保険を使うのが難しい。実際に介護保険を受けながら医療保険を受けている利用者が多い。厚労省の動向や実際の現場での動きを見ながら、授業を展開してほしい。

澤谷：医療機関から介護保険は是非とも勉強してほしいと言われている。

福谷：現場からの勉強してほしいという発言は本音だと思われる。現場サイドでもわからないこ

とがあるため、早いうちからしっかり勉強してほしいのだと思う。

②就職について

③インターンシップについて

④昨年度委員会にてご指摘のあったこと

福谷：データ整理をどう使うのか、またパソコンで普段使用しているソフトを自分なりに使えるのか基本機能から使えるようにする。

⑤今年度の取り組み（学内で検討した事）

福谷：車イスの事故は、患者さん自ら運転できると言っている事故が多い。だが医療機関スタッフ側でも支えることなど、できることはあるため事故は患者さんの自己責任にはならない。車イスの種類によってブレーキの位置等が異なるため、電動車イス等も体験できるとよい。

2年生の高齢者疑似体験だが、

⑥検討したい内容

岡屋：本日欠席の兼重さんから、この内容についてメールで意見をいただいている。急性期病院に就職をする場合は活かせるが、時間数が多く他の科目が犠牲になるかもしれないことを指摘された。

福谷：予備知識やさわりとしての知識で問題ない。経営上は必ず知識を持った人は必要。D P Cは医療の標準化や定額化が目的。知識として習得するのはよいが、時間数が多いと感じる。

6. 次回の開催について

2025年2月頃予定